

## ファインセラセンターと東濃の産学官が連携

# 多機能超軽量セラ建材開発へ

### 経済産業省の 即効型地域事業 ヤマセなどが参画

【多治見】経済産業省の即効型地域新生事業として、セラミックス研究開発事業に採択された「新セラミックス」が、未利用資源を活用した多機能超軽量セラミックス建材の開発が、財団法人ファインセラミックスセンター（名古屋市中熱田区）と東濃の産学官の連携により進められることになった。

参加機関は、名古屋工業大学セラミックス基盤工学研究センター（多治見市）、多治見市陶磁器意匠研究所（多治見市）、タイル用原料土メーカーのヤマセ（本社土岐郡笠原町）、TOTO岐阜タイルセンター（東陶機器タイル・建材事業部、土岐市）の四者。廃棄物など未利用資源活用技術と多孔体製造技術、新加飾技術を融合し、高付加価値の新セラミックス建材の開発を目指す。

### 廃棄物など活用 多孔体製造と新加飾技術を融合

今回のプロジェクトで、セラミックス研究開発事業は、①一般ガラス廃材など廃棄物を九〇％以上使用した原料土開発②廃棄物など未利用資源と空気を主体にした低コスト軽量の多孔体製造③微粉末の釉薬、絵の具によるインクジェット式デジタル加飾技術の確立がポイント。低温焼成による環境負荷の低減も図る。新しい循環型生産プロセスを確立したうえで、最終的に、従来のタイルになりやすい軽量、断熱、吸音の性能と施工性に優れた住宅用内外装セラミックス建材の開発を目指す。

セラミックス研究・評価をフ

研究開発では、原料開発をヤマセ、製造・施工技術をTOTO、成形基

礎技術を名古屋工業大ターが担当する。プロジェクトの総括研究代表者は高橋実名古屋工業大学教授。総事業費は約八千三百万円。研究開発期間は来年三月末まで。